

2023年4月12日

千葉県知事
熊谷 俊人 様

生活クラブ生活協同組合
代表理事 福住 洋美

2022年度 ちばSSKプロジェクト等に関する取り組み報告書

1. 報告

生活クラブ生活協同組合「ちばSSKプロジェクト」に関する取り組みの年間計画について、2022年度のちばSSKプロジェクトに関する活動状況を報告します。

2. 2022年度計画のまとめ

生活クラブ生活協同組合は、食材の宅配など日々の業務と組合員と活動を通して、高齢者の見守りをはじめとする「ちばSSKプロジェクト」の取り組みに協力しました。

I 高齢者の見守り

■配達時や店舗での高齢者および地域の見守りを各行政区で「見守り・気づき」の活動を実施しました。新たな組合員の見守り機能として、組合員と離れたご家族へ、配達時の確認メール（在宅の有無、注文の有無）を配信する「見守り安心サポート」を開始しました。見守り安心サポートの登録件数は、31件（2023年3月末時点）となっています。

■「高齢者見守りネットワーク協定」は現在、佐倉市、千葉市、市原市、木更津市、袖ヶ浦市、八千代市、習志野市、浦安市、市川市、船橋市、松戸市、鎌ヶ谷市、白井市、柏市、我孫子市、計15市と締結しています。今後も当組合の事業所のある自治体と「高齢者見守りネットワーク協定」の締結を進めていきます。

II 「ちばSSKプロジェクト」

■ちばSSKプロジェクトの取り組みを地域に広報していくために、PR用の店舗・配送車両用ポスターを独自に作成し掲示しています。

III 認知症対策

■認知症サポーターの役職員等は、オレンジリングと合わせて名札に認知症サポーターのシールを身に付け周知を図りました。また、認知症サポーターのステッカーを店頭や事務所入口等への掲示等を行いました。

■組合員を主体とした、認知症サポーター養成講座を2回開催し、地域の見守り活動につなげました。

V 高齢者の安全、安心

■組合員・地域の見守り活動を通じて、不審に思われる高齢者の消費者被害に気付いた場合も上長に報告し、自治体の関連機関等に通報する取り組みを行なっています。配達先にて異変に気づき、家族や関係機関に連絡するなどいくつか事例が発生しており、職員間で事例共有をおこないました。

■社会福祉法人（生活クラブ風の村）など生活クラブ千葉のグループ団体と共に、県内の10拠点（流山、柏、船橋、園生、作草部、佐倉、八街（東吉田）、成田、市川、八街（吉倉））において、風の村の利用者や地域住民を対象に地域の支えあいを応援する「生活クラブ安心システム」に取り組みました。

■地域住民の繋がりを作る居心地の良い居場所「街の縁側」活動に取り組みました。印西市木刈にある店舗のスペースの一角に、地域住民が集う「街の縁側」という居場所を2022年度からスタートしました。9月より、地域食堂をはじめとするさまざまな活動を木刈の居場所で展開して、地域に浸透してきています。

以上